

ABOUT OUR PROJECT

LEARNING, SHARING, WORKSHOP, ART PROGRAM and MORE



海から見ると、線は無かった。

わたしたちが暮らす世界には様々な「境界線」が引かれていて、わたしたちはそこに本当に線があるかのように振る舞っています。でも「海の視点」で陸を眺めてみると、そこに境界線はありませんでした。

「あちら」と「こちら」に線はなく、「いま」と「むかし」にも線は無い。そんな視点で世界を見てみると、自分たちが暮らす地域がこれまでと違って見えてきます。

「つながる湾プロジェクト」は、海からの視点で松島湾を再発見し、味わい、共有し、表現することを通して、現代では当たり前になっている「陸の視点」とは異なった見方で地域や人・時間のつながりを捉え直す試みです。

PROJECT CONCEPT

1. 「湾」の文化を見つける

松島湾界隈を「ひとつながりの地域」と捉えて、この地域の文化を探ります。

2. 「湾」の文化を表現する

「視点を変える」仕掛けを大切に、見つけた湾の文化を表現します。

3. 「湾」の文化を分かち合う

この地域に暮らす人びとと「湾に暮らす面白さ」を共有し、広げます。

WORKSHOP & ART PROGRAM

そらあみー松島湾ー

“網を編む”という古来水辺で営まれてきた行為を通じて土地の記憶を紡ぎだし、完成した網を展示することで見慣れた風景を捉え直すきっかけを創ります。
(アーティスト：五十嵐靖晃)



LEARNING & SHARING

湾の勉強会

松島湾の文化や歴史・自然について学ぶ勉強会を不定期で開催しています。地元の歴史を研究している方や、生産者、文化人等多彩なゲストを招きます。



海底タイムカプセル松島湾

思いを綴った手紙をタイムカプセルに入れて松島湾に沈めます。湾の小さな生物たちとともに海中に数年間眠った後、未来の自分に手紙が届きます。



海辺の記憶を辿る旅展

見つけた湾の文化をより多くの方々に楽しんでいただくエキシビションです。アートワークショップなど、体験型のプログラムを中心に構成しています。



語り継ぎのためのWS

地域の物語や先人の知恵を、歌や詩、時には調理やクラフトを用いて語り継ぎます。今を生きる私たちが、地域の文化を自分の言葉で語れるように、想像力を刺激します。

※WS=ワークショップ



CULTURE AREA

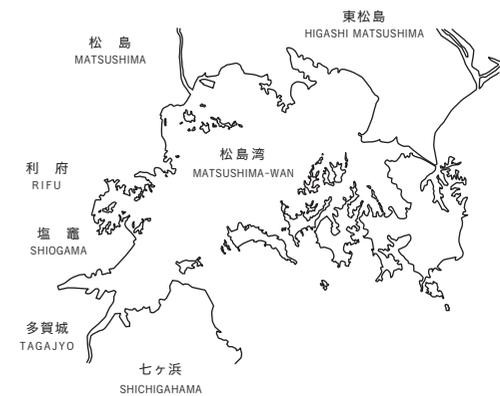
“文化圏”で考える

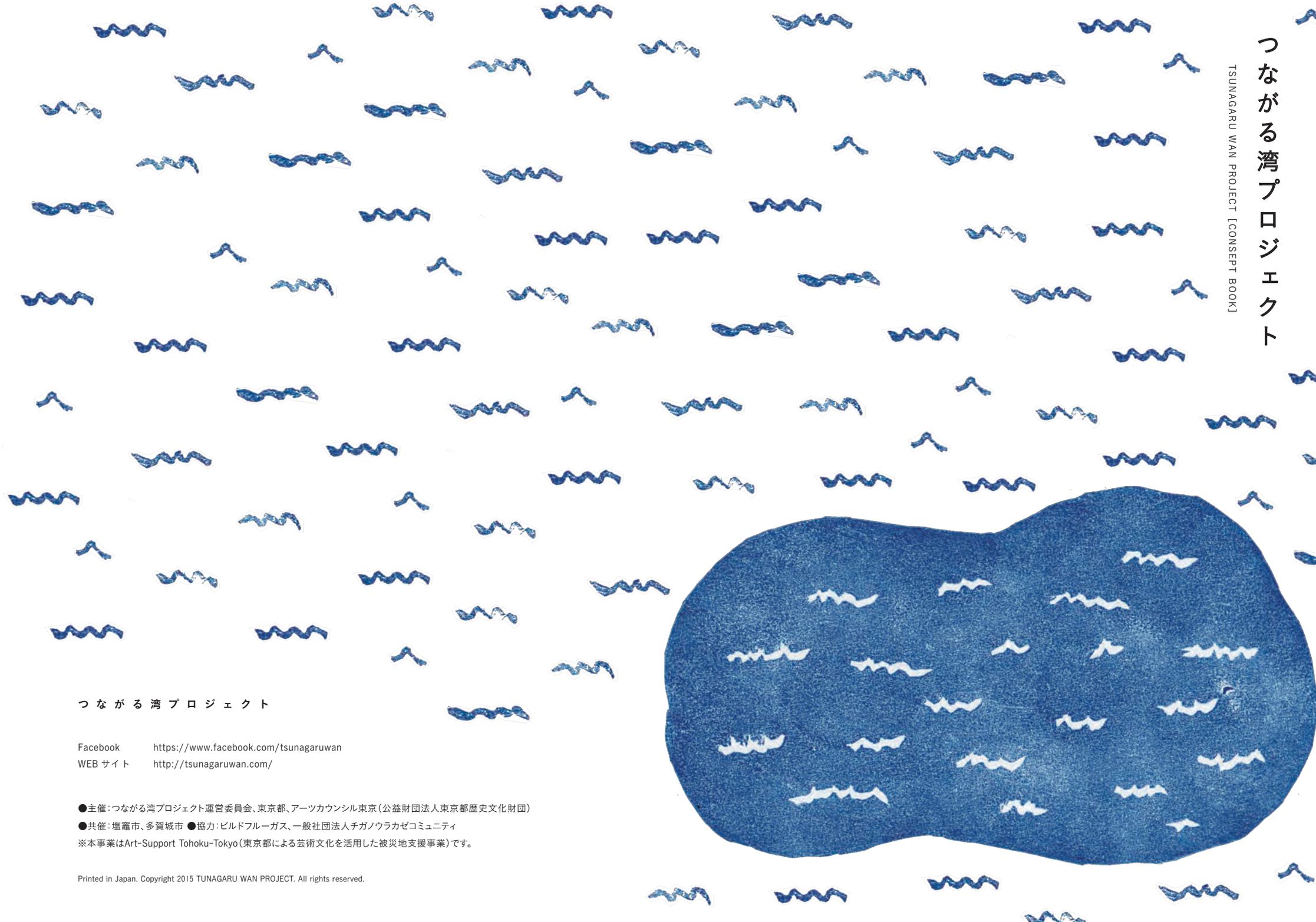
松島湾の沿岸部には現在三市三町の自治体がありますが、これらの地域はみな、これまでの長い営みの中で、松島湾の地形とそれがもたらす恵みにより文化を育んできました。「海」に着目して地域を見てみると、現代の生活では見えにくくなっている「湾の文化のつながり」が現れてきます。そこには共通点もあれば、役割の違いもありますが、「湾がそこにあつたから」現在そうなっていると、多くの場面で実感することができるのです。そうした視点が、これから地域で生きていくことを考える時に重要なのではないかと、私たちは考えています。

MATSUSHIMA - WAN

宮城県・松島湾について

仙台湾の内湾である松島湾は、水深が浅く波が穏やかで、古代より豊富な海産物に恵まれています。全域で早くから製塩が行われており、狩猟採集を生業としていた縄文時代にさえ、数千年に渡り集落が営まれていたほど豊かな海です。藩政時代には伊達藩の年貢米を江戸へ運ぶ船で賑わい、明治時代以降も、鉄道網が整備される昭和初期まで海運の要衝でした。南西部の塩釜港は今もマグロ漁獲高日本一で、東部の松島町や奥松島は日本有数の景観を誇ります。湾内の浦戸諸島には、4島の有人島があります。





つながる湾プロジェクト

Facebook <https://www.facebook.com/tsunagaruwan>
 WEB サイト <http://tsunagaruwan.com/>

- 主催: つながる湾プロジェクト運営委員会、東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)
 - 共催: 塩竈市、多賀城市 ●協力: ビルドフルーガス、一般社団法人チガノウラカゼコミュニティ
- ※本事業はArt-Support Tohoku-Tokyo(東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業)です。